

消化器内科後期研修プログラム（消化管）

達成目標	
【A】	意義を理解し、独力で対応できる。
【B】	独力で対応できることが望ましいが、困難な場合、上級医の助言・援助を得る
【C】	独力で行なえなくとも、十分な知識があればよい。

I. 一般的処置 【A】

- A. 胃洗浄（胃チューブ、イレウスチューブ）
- B. グリセリン浣腸、高圧浣腸
- C. 腹腔穿刺、排液

II. 診断、治療手技

A. 血液、尿、糞便 【A】

- 1. 腫瘍マーカー、腫瘍関連マーカー
 - a. CEA b. CA19-9

2. 糞便検査 【A】

- a. 細菌培養 b. 寄生虫卵 c. 便潜血反応（免疫学的、化学的）

3. Helicobacter pylori 検査 【A】

4. 上部・下部消化管 X線造影検査 【A】

5. 上部・下部消化管ルーチン内視鏡検査 【A】

6. 画像検査 腹部超音波、腹部 CT・MRI 【A】

7. 腹水の一般検査および細胞診 【A】

B. 治療手技

1. 食道バルーンタンポナーデによる止血 【B】

2. 食道バルーン拡張術 【B】

3. 食道静脈瘤硬化療法（EIS） 【B】

4. 食道静脈瘤結紮術（EVL） 【B】

5. 内視鏡的粘膜切除術 【C】

6. 内視鏡的止血術 【B】

7. 内視鏡的ポリープ摘除術 【B】

Ⅲ. 疾患

いずれの疾患もその病態を理解し、経過を予測し、適切な治療方針が立てられる。ただし、難治症例やまれな症例の場合、カンファレンス等で上級医の助言・指導を受ける。

A. 食道疾患

1. 食道炎
2. 食道潰瘍
3. dysplasia 潰瘍
4. アカラシア
5. 食道癌 (dysplasia を含む)
6. 食道肉腫
7. 食道良性腫瘍
8. 食道裂孔ヘルニア
9. 食道憩室
10. 食道静脈瘤

B. 胃・十二指腸疾患

1. 急性胃炎
2. 慢性胃炎
3. 胃・十二指腸潰瘍
4. 吻合部潰瘍
5. 胃癌
6. 胃癌以外の悪性腫瘍
7. 胃良性腫瘍 (ポリープ・粘膜下腫瘍)
8. 十二指腸腫瘍
9. 胃軸捻転症
10. 胃憩室
11. 十二指腸憩室
12. 蛋白漏出性胃腸症
13. 胃切除後症候群
14. Mallory-Weiss 症候群
15. 急性胃拡張

C. 腸疾患

1. 腸炎 (腸管感染症、食中毒を含む)
2. 虫垂炎
3. Crohn 病
4. 潰瘍性大腸炎
5. 腸結核
6. 薬物起因性腸炎
7. 非特異性腸潰瘍
8. アフタ性大腸炎
9. 大腸ポリープ
10. 大腸癌
11. 小腸腫瘍
12. 上腸間膜動脈症候群
13. イレウス
14. 過敏性腸症候群
15. 吸収不良症候群
16. 虚血性腸炎
17. 盲係蹄症候群
18. 憩室炎
19. 巨大結腸症
20. 消化管カルチノイド
21. 消化管ポリポーシス
22. 遺伝性非ポリポーシス性大腸癌

D. 肛門疾患

痔核、痔瘻、裂肛